大谷中学校・高等学校

# 令和３年度学校関係者学校評価委員会

【日　時】令和４年７月１日（金）14:00～15:30

【場　所】大谷中学校・高等学校　　Ｂ26 教室

【出席者】（敬称略）１２名

| | | |
|---|---|---|
| 柿花 | 正信 | 大阪市立松虫中学校校長（欠席） |
| 三木 | 健史 | 大阪市立丸山小学校校長 |
| 米村 | 淳 | (株)五ツ木書房取締役 |
| 冨田 | 晃司 | 大阪大谷大学副学長 |
| 長島 | 清賀 | 保護者（ＰＴＡ副会長） |
| 荒木 | 結衣 | 卒業生 |
| 堀川 | 義博 | 校　　長 |
| 村井 | 康容 | 教　　頭　生活指導 |
| 三木 | 栄子 | 教　　頭　教務 |
| 永田 | 幸子 | 教　　頭 |
| 山西 | 京子 | 進路指導部長 |
| 伊藤 | 良太 | 英語・海外教育部長 |

１）開会挨拶　　校長　堀川　義博

２）出席者紹介　校長　堀川　義博

３）資料　　資料１『令和３年度　大谷中学校・高等学校　学校評価』
資料２『令和３年度　教員による学校自己評価』
資料３『令和３年度　保護者アンケート』
資料４『令和３年度　生徒アンケート』

大谷中学校・高等学校
校　長　　堀川　義博

# 令和３年度　大谷中学校・高等学校　学校評価

１　めざす学校像

報恩感謝の精神に基づく宗教的情操教育を通じて豊かな心を養い、自ら学ぶ意欲と社会の変化に的確に対応し得る能力を育み、２１世紀社会を正しく生きるための幅広い社会認識を持たせる。

心身ともに健全で美しい女性を育成する女子校として、宗教的情操教育を基盤とした生活指導の徹底と進学校としてのより高度な学力養成をはかり、慈悲の心を有する優しい女性、礼儀正しい美しい女性、高い知力を備えた聡明な女性を育む。

２　中期的目標

１．　学習指導

①　学習習慣の確立と基礎学力の定着をはかる。

②　コースに応じた学力向上の取り組みを強化する。

③　「新しい学力観」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、教員の授業力を向上させる。

２．　進路指導

①　生徒の進路や個性に応じたコース編成で一人ひとりの力を最大限に伸ばすべく、個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導を図る。

②　中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開に努める。

③　将来、社会で生き抜いていく確かな力を身に着けさせるため、中学生の早い時期から、自己の適性や社会との関わりを意識させることで、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できる人間に育てるべく、様々な取り組みを工夫する。

３．　生活指導

①　「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」「時間厳守」を年間生活目標に設定する。

②　生徒対象に防災教育、ＳＮＳや薬物の危険性、心肺蘇生の講習などを実施し、生徒に対して啓発に努める。

③　教員対象に生活指導に関する研修を受け、情報を共有し、全職員で指導にあたるべく努力する。
カウンセリングや必要に応じた特別支援の充実、学園カウンセラーとの連携などを通じたいっそうの指導、対応に努める。

４．　海外教育

①　グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成する。

②　異文化理解に努める。

③　英語によるプレゼンテーションの向上を図る。

④　ニュージーランド1年留学・3か月留学を通じて、実用的英語力の涵養を図る。

５．　生徒募集・広報活動

①　中学校入試では入試行事参加者を増やし、募集定員確保のため積極的に広報活動に努める。

②　高校入試では幅広く周知できるよう広報活動を徹底し、募集定員確保を目指す。

3　本年度の取組内容及び自己評価

| 項目 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---|---|---|---|---|
| １学習指導 | ①学習習慣の確立と基礎学力の定着をはかる。 | ・学習習慣の確立と基礎学力定着のために小テストを実施する。<br>・各学年の学力状況を、具体的に把握をする。 | ・全員合格を目指して指導する。<br>・成績不十分者には追試や課題などを与える。<br>・英検と漢検の最新の取得状況を各学年で把握するため、6学年とも係の教員を決め更新作業を行う。 | ・学習習慣の確立と、基礎学力の定着に効果が現れた。（〇）<br>・小テストの実施について改善が見られた。（△）<br>・全学年の英検・漢検の取得状況を一覧表にし、各学年での取得級目標の設定や現状把握がしやすくなった。（〇） |
| | ②コースに応じた学力向上の取り組みを強化する。 | ・管理職会議で、生徒の考査成績や模試成績を分析し、コースに応じた学力向上対策を実施する。 | ・考査や模試の偏差値で40以下となるような成績となる生徒をなくす。<br>・各学年の中間成績層をのばす。 | ・中学では、低学力層の生徒に対する手当を、定期考査前後の特別講習等で対応した。（〇）<br>・中学・高校とも、模試ごとの分析会を学年毎に開催し、各学年の学力状況についての共通認識と課題を教員間で把握した。（△） |
| | ③「新しい学力観」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、教員の授業力を向上させる。 | ・授業研鑽週間をⅢ学期に設ける。 | ・中学、高校それぞれの授業を１時限以上見学し、報告書を提出させる。 | ・非常勤講師の授業や、リモート授業も自由に見学できることとした。<br>iPadを用いた授業の見学により、他教科の授業であっても、自分の授業に活かすことができた。（〇）<br>・研鑽報告として、教科の教員による模擬授業や、勉強会での報告も可とした。多数の教員の参考になるように、模擬授業の動画配信を行い、教科指導の研鑽につとめた報告もあった。（〇） |
| | | ・ＩＣＴ機器などを活用し、「新しい学力観」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、授業に活かす。 | ・専任・常勤に一人一台のタブレットを配布した。そのことで、コロナ禍のリモート授業にも対応するとともに、生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、思考力、判断力、表現力を習得する。 | ・教員のＩＣＴ機器の活用が増え、生徒が自ら学ぼうとする意欲を高揚させることができた。また、プロジェクターなどを生徒の理解を助けるために、有効活用できている。（◎）<br>・コロナ禍での、急遽のリモート授業にもスムーズに全学年・全クラス対応ができた。（◎） |
| | | ・教務部と進路指導部が連携して、学習指導委員会を運営し、教育課程・シラバス・年間指導計画の妥当性のチェックと改善を行う。 | ・学習指導委員会による検討内容が全教員に伝わり、学年間や教科間での連携、状況認識を徹底させ、授業の充実や学習指導の改善に活かされる。<br>・高校の新課程・新カリュキュラム・観点別評価について、決定する。 | ・学習指導委員会の会議内容は、学年会議を通じて毎週報告をした。これにより伝達がスムーズになった。（〇）<br>・高校の新課程・新カリキュラムについて、学習指導委員会で原案をたて、職員全体で共通理解するとともに、課題を把握した上で、作成することができた。（〇）<br>・コースごとの、学年評定の見直し、新カリキュラムの観点別評価について検討を行った。（〇） |
| ２進路指導 | ①生徒の進路や個性に応じたコース編成で、一人ひとりの力を最大限に伸ばすべく、個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導を図る。 | ・平常講習や小テスト、長期休暇中の講習を実施する。<br>・卒業生のチューターを活用して少人数の個別指導をしたり、体験談を聞く機会を設けモチベーションアップにつなげる。 | ・それぞれの講習・小テストの日程・回数・内容について、生徒のニーズに適っているか、７割以上の満足度を得られているかを確認する。 | ・講習の日程・回数についてはコロナ禍で、放課後の活動が制限され十分とは言えない結果になったが、内容については工夫されていた。小テストはほぼ予定通り行われ、内容も生徒にあうものであった。（△） |
| | | ・中学校低学年においては、コース変更を柔軟に行い、それぞれの学習ペースに応じた学習環境を整える。<br>・学習や進路についての個別面談をきめ細やかに行う。 | ・コースの目標に沿った学習計画・学習内容が展開されているか、確認する。 | ・コース内の学力差が大きく、コースの目的にあうコース変更とはいかなかった。しかし、面談を丁寧に行うことによって、生徒それぞれの目標設定の指導が行なえた。（〇） |
| | ②中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開に努める。 | ・生徒自らが適切な進路選択を行えるように、適切な時期に進路について考える機会を設け意識を促す。<br>・模擬試験を活用し、自身の学習到達度を把握させる。 | ・国公立大学の合格者数が在籍人数の２割を超えること、医学部医学科合格者数をのべ20名程度、関関同立の合格者数がのべ100名を超えることを目指す。 | ・合格実績については国公立大学の合格者数は目標を上回り、関関同立の合格者数もほぼ100名となったが、医学部医学科の合格者数は目標に達しなかった。ほとんどの生徒が満足のいく進路結果が得られていたと思われる。（◎） |
| | ③将来、社会で生き抜いていく確かな力を身に着けさせるため、中学生の早い時期から、自己の適性や社会との関わりを意識させることで、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できる人間に育てるべく、様々な取り組みを工夫する。 | ・生徒が将来の姿を思い描く手がかりになるように、様々なキャリア体験の機会を設ける。 | ・各学年ごとに将来の進路決定につながるキャリア行事を行う。 | ・コロナ禍で、外部の行事や校内行事がほとんど実施できなかった。しかし、リモートでの参加や担任・教科担当の工夫で補った。（△） |
| | | ・大学の出前授業や外部団体による体験授業などを活用し、生徒のモチベーションのアップを図る。 | ・外部講師を招いての講演会を、高校各学年において１回ずつは実施する。<br>・休暇中に実施される外部体験学習などへの参加を勧める。 | ・コロナ禍で，外部や校内で集まる行事が実施できなかった。しかし，担任・教科担当が工夫して補った。(△) |
| | | ・体験・見学など機会あるごとに振り返りを言語化し、文章にまとめるように指導する。 | ・報告文・感想文などを提出させる機会を多く設ける。 | ・担任・教科担当が表現力の涵養を強く意識し、プレゼン指導や文章表現指導に積極的に取り組んだ。(〇) |

3　本年度の取組内容及び自己評価

| 項目 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---|---|---|---|---|
| 3 生活指導 | ①「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」「時間厳守」を年間生活目標に設定する。 | ・講堂朝礼や毎朝の登校指導において生徒たちへの声掛け指導を行う。<br>・遅刻の多い生徒への個別指導を行う。 | ・生徒・保護者アンケート。遅刻指導の報告書。 | ・生徒・保護者アンケート結果から昨年度より向上がみられるが、毎朝の登校指導の様子からは「自分からあいさつできる生徒」はまだ少ない。（×）<br>・遅刻者数は減少しているが、コロナ不安で登校しない生徒も増えていた。（〇） |
| | ②生徒対象に防災教育、SNSや薬物の危険性、心肺蘇生の講習などを実施し、生徒に対して啓発に努める。 | ・防災避難訓練の実施。SNSについての講演。<br>・薬物についての講演。性被害についての講演。 | ・生徒・保護者アンケート。危機管理についての意識付け。 | ・感染症対策の為、全体での避難訓練の実施はできなかった。（×）　・SNSや薬物の講演は時期を変更して実施できた。（〇）<br>・新しい情報は今後の生徒指導に生かすことができた。（〇） |
| | ③教員対象に生活指導に関する研修を受け、情報を共有し、全職員で指導にあたるべく努力する。カウンセリングや必要に応じた特別支援の充実、学園カウンセラーとの連携などを通じたいっそうの指導、対応に努める。 | ・職員人権教育研修会でいじめについての講演。<br>・学園カウンセラーとの情報交換。 | | ・職員人権教育研修会でいじめの講演を実施できた。（〇）　・学園カウンセラーとの情報交換はできた。（〇） |
| 4 海外教育 | ①グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成する。 | ・夏期海外研修・姉妹校交流などを推進する。<br>・グローバル・イングリッシュ・ゾーンにおける活動を準備している。 | ・ニュージーランド夏期研修・オーストラリア夏期研修・タイ夏期研修を通じて国際理解を深める。<br>・GEZにおけるネイティブとの英語レッスンは次年度から開始予定。 | ・コロナ禍のために海外研修・ニュージーランド留学を実施することができず、計画の遂行ができなかった。(×)<br>・次年度からGEZでの英会話レッスンを通じてネイティブとの英語会話の機会を増やす予定。（〇） |
| | ②異文化理解に努める。 | ・ニュージーランド姉妹校オークランド・グラマー・スクールの生徒と「文通」を開始する。２学期末に本校生徒からの英文手紙を発送し、「文通」による交流を実践する。 | ・ニュージーランド姉妹校生徒に対して本校生徒から手紙を発送し「文通」を実現させる。 | ・本校生徒たちからニュージーランド姉妹校へ手紙を送って、生徒個人をベースに姉妹校交流を試みた。一部の生徒は姉妹校生徒とのメールでの交流を開始している。（〇） |
| | ③英語によるプレゼンテーションの向上を図る。 | ・グローバル・イングリッシュ・ゾーンでの活動を検討する。<br>・SDGｓに関わるテーマについて情報収集と交流をすすめる。<br>・2022年度アートマイル国際協働学習プロジェクト参加をめざす。 | ・同世代の外国の学校とSDGｓに関わる交流を実践して、相互理解を通じて世界的な課題を認識して、現状認識を将来の展望について考えさせたい。 | ・放課後の活動時間の確保ができず今年度は十分な成果を上げることができなかった。次年度のアートマイル国際協働学習プロジェクトへの参加をめざして活動をすすめたい。アートマイルの活動の一部をGEZの活動に結びつけたい。(△) |
| | ④ニュージーランド１年留学・３か月留学を通じて、実用的英語力の涵養を図る。 | ・NZ留学予定者にはグローバル・イングリッシュ・ゾーン（GEZ）への参加を義務づけている。 | ・一人もしくは少数者による英語プレゼンテーションを数多く経験させて、実用英語力の定着を図る。 | ・グローバル・イングリッシュ・ゾーンの開設に向けて、習熟度別にネイティブと英語を話す機会をある程度とることができた。（〇） |
| 5 生徒募集・広報活動 | ①中学校入試では入試行事参加者を増やし、募集定員確保のため積極的に広報活動に努める。 | ・参加人数だけでなく、行事の質を担保することで、参加者の満足度を高める。 | ・参加者アンケートの分析。<br><br>・出願者の通塾先の分析。 | ・アンケートの分析からは、昨年並みの出願が見込めた。（◎） |
| | ②高校入試では幅広く周知できるよう広報活動を徹底し、募集定員確保を目指す。 | ・塾訪問の回数を維持すると同時に、新たに訪問する塾を増やす。<br><br>・公立中学訪問の回数を維持すると同時にダイレクトメールなどで、入試情報提供を行う。 | ・出願者の出身中学の分析。<br>・本校説明会や外部相談会本校ブース参加者の人数。 | ・高校入試では、北摂の受験生の出願が複数見られた。（◎）<br>・募集定員確保は成らずとも、出願数・入学者数共に伸ばすことができた。（〇） |

# ２０２１年度　教員による学校自己評価

| 項目番号 | 各項目について、下の１～４のうち、もっともあてはまるものを選び、回答欄に数字を記入してください。<br>１：そう思う　２：どちらかといえばそう思う　３：あまりそう思わない　４：そう思わない | 中高全体（%） | | | | 今年度 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 平均評価 | 平均評価 |
| 1 | 学校の教育方針、教育目標、年度毎の努力目標について周知されている。 | 24.1 | 55.2 | 17.2 | 3.4 | 3.0 | 3.1 |
| 2 | 生徒の実態を組織的に把握し、教育課題を明らかにできている。 | 13.8 | 56.9 | 24.1 | 5.2 | 2.8 | 2.9 |
| 3 | 教育課題解決のための組織が機能し、解決のための方策を具体化している。 | 17.2 | 39.7 | 29.3 | 13.8 | 2.6 | 2.6 |
| 4 | 学校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている。 | 27.6 | 51.7 | 15.5 | 5.2 | 3.0 | 3.1 |
| 5 | 各年度の教育計画の作成に当たって、教職員でよく話し合っている。 | 22.4 | 48.3 | 22.4 | 6.9 | 2.9 | 3.0 |
| 6 | 建学の精神である「宗教的情操教育」が教育活動全体を通じて実践できている。 | 22.4 | 53.4 | 22.4 | 1.7 | 3.0 | 3.2 |
| 7 | 朝礼、終礼時には瞑目や合掌、讃歌斉唱がきちんと実践できている。 | 69.0 | 27.6 | 3.4 | 0.0 | 3.7 | 3.7 |
| 8 | 今年度の生活指導の目標を意識して生徒指導ができている。 | 20.7 | 58.6 | 17.2 | 3.4 | 3.0 | 3.1 |
| 9 | 宗教的行事（はなまつり、報恩講、追弔会、了秀忌、早朝勤行など）が意義あるものとして実施できている。 | 50.0 | 39.7 | 10.3 | 0.0 | 3.4 | 3.4 |
| 10 | 教職員に対する宗教教育研修が意義あるものとして実施できている。 | 19.0 | 48.3 | 27.6 | 5.2 | 2.8 | 3.0 |
| 11 | 新しい教育課題や生徒のニーズに対応した教育課程が工夫されている。 | 12.1 | 58.6 | 24.1 | 5.2 | 2.8 | 2.8 |
| 12 | 教科毎に学習指導計画を立て、指導にあたっている。 | 43.1 | 50.0 | 5.2 | 1.7 | 3.3 | 3.4 |
| 13 | 年間の学習指導計画について、各教科内でよく話し合っている。 | 25.9 | 58.6 | 12.1 | 3.4 | 3.1 | 3.2 |
| 14 | 学習指導計画について、他教科とも情報交換し連携している。 | 1.7 | 22.4 | 58.6 | 17.2 | 2.1 | 2.3 |
| 15 | 学習指導計画は各コースの特性を踏まえたものになっている。 | 22.4 | 41.4 | 32.8 | 3.4 | 2.8 | 2.9 |
| 16 | 学習指導計画は生徒の実態を踏まえたものになっている。 | 20.7 | 36.2 | 36.2 | 6.9 | 2.7 | 2.9 |
| 17 | 常に生徒が理解できる授業をしている。 | 19.0 | 69.0 | 6.9 | 5.2 | 3.0 | 3.2 |
| 18 | 日常の教科指導において教員間で個々の生徒に関する情報を交換し、協力して指導にあたっている。 | 31.0 | 60.3 | 5.2 | 3.4 | 3.2 | 3.4 |
| 19 | 到達度の低い生徒に対する学習指導において、個別対応等を含めて工夫している。 | 24.1 | 51.7 | 20.7 | 3.4 | 3.0 | 3.0 |
| 20 | 学習意欲の高い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫を行っている。 | 25.9 | 55.2 | 19.0 | 0.0 | 3.1 | 3.1 |
| 21 | 授業に対する生徒の興味・関心を引き出すよう、体験学習や問題解決学習など多様な指導を工夫して取り入れている。 | 20.7 | 51.7 | 24.1 | 3.4 | 2.9 | 2.9 |
| 22 | 教員間の参観等で授業内容を相互に評価するなど、教科毎の企画工夫を通じて学習指導力の向上に努めている。 | 20.7 | 46.6 | 25.9 | 6.9 | 2.8 | 2.8 |
| 23 | 学校内外の研修に参加し、学習指導の向上に努めている。 | 12.1 | 41.4 | 36.2 | 10.3 | 2.6 | 2.7 |
| 24 | 研修や研究の成果を報告し、校内全体で共有できるように努めている。 | 5.2 | 39.7 | 41.4 | 13.8 | 2.4 | 2.6 |
| 25 | 新任教員に授業方法の伝達指導を行うなど、育成に努めている。 | 8.6 | 34.5 | 39.7 | 17.2 | 2.3 | 2.5 |
| 26 | 授業参観や保護者懇談会などを通じて、本校の学力向上の取り組みが保護者にもよく理解されている。 | 8.6 | 63.8 | 24.1 | 3.4 | 2.8 | 2.8 |
| 27 | 評価のあり方について検討する機会がある。 | 12.1 | 37.9 | 39.7 | 10.3 | 2.5 | 2.7 |
| 28 | 生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、各学年に応じた系統的な進路指導を行っている。 | 12.1 | 51.7 | 25.9 | 10.3 | 2.7 | 2.8 |
| 29 | 生徒一人一人が興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている。 | 19.0 | 53.4 | 22.4 | 5.2 | 2.9 | 3.0 |
| 30 | 本人の適性に応じて学内でのコース変更や受験校選定指導をていねいに行っている。 | 31.0 | 55.2 | 8.6 | 5.2 | 3.1 | 3.1 |
| 31 | 私物のコンピュータ等のセキュリティ対策ができている。 | 36.2 | 41.4 | 19.0 | 3.4 | 3.1 | 3.1 |
| 32 | ICT機器を利用した授業を実践している。 | 29.3 | 46.6 | 19.0 | 5.2 | 3.0 | 3.1 |
| 33 | 様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている。 | 22.4 | 46.6 | 25.9 | 5.2 | 2.9 | 3.2 |
| 34 | 生徒指導において、カウンセリングマインドを持って生徒に接するよう教職員の共通理解が得られている。 | 17.2 | 46.6 | 27.6 | 8.6 | 2.7 | 3.0 |
| 35 | 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員やカウンセラーとも相談することができる。 | 34.5 | 55.2 | 8.6 | 1.7 | 3.2 | 3.3 |
| 36 | 生徒指導において、家庭との緊密な連携ができている。 | 31.0 | 58.6 | 8.6 | 1.7 | 3.2 | 3.3 |
| 37 | 生徒に接する時、挨拶や適切な言葉遣いができている。 | 27.6 | 62.1 | 8.6 | 1.7 | 3.2 | 3.4 |
| 38 | 校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、教職員の間で話し合う機会がある。 | 8.6 | 44.8 | 31.0 | 15.5 | 2.5 | 2.8 |
| 39 | 問題行動の指導にあたっては、規定を機械的に当てはめることなく、個々の生徒の行為に応じて適切に指導している。 | 27.6 | 53.4 | 13.8 | 5.2 | 3.0 | 3.3 |
| 40 | いじめ防止のための取り組みや体制づくりに努力している。 | 34.5 | 53.4 | 8.6 | 3.4 | 3.2 | 3.3 |
| 41 | 人権尊重に関する委員会があり、人権に関する事象を研究・検討するとともに、本校の人権教育の推進について計画的に取り組んでいる。 | 29.3 | 44.8 | 19.0 | 6.9 | 3.0 | 3.0 |
| 42 | 人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合う機会がある。 | 13.8 | 32.8 | 41.4 | 12.1 | 2.5 | 2.5 |
| 43 | 人権教育の推進に取り組むための研修が行われている。 | 29.3 | 43.1 | 24.1 | 3.4 | 3.0 | 2.9 |
| 44 | 海外教育の取り組みによって国際理解が深まっていると思う。 | 10.3 | 51.7 | 31.0 | 6.9 | 2.7 | 2.9 |
| 45 | 学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。 | 24.1 | 53.4 | 17.2 | 5.2 | 3.0 | 3.1 |
| 46 | 生徒会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している。 | 20.7 | 51.7 | 27.6 | 0.0 | 2.9 | 3.0 |
| 47 | 部活動が盛んで、生徒もよく参加している。 | 17.2 | 48.3 | 27.6 | 6.9 | 2.8 | 2.9 |
| 48 | ホームページや学校説明会などを通じて、本校を理解いただくための情報提供が適切になされている。 | 29.3 | 51.7 | 15.5 | 3.4 | 3.1 | 3.1 |
| 49 | 学校の経営状況について教職員が理解している。 | 10.3 | 37.9 | 39.7 | 12.1 | 2.5 | 2.6 |
| 50 | 学園本部と学校との意志疎通が適切になされている。 | 1.7 | 15.5 | 41.4 | 41.4 | 1.8 | 2.1 |

# ２０２１年度　生徒アンケート

大谷中学校・高等学校

| 質問番号 | 質問内容 | そう思う | どちらかといえば<br>そう思う | あまり<br>そう思わない | そう思わない | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 朝礼、終礼にまじめに取り組めていますか。 | 62% | 32% | 3% | 2% | | | |
| B | 日常、その場に応じた適切な言葉遣いができていますか。 | 42% | 50% | 7% | 2% | | | |
| C | 日常生活で時間を守って生活できていますか。 | 45% | 42% | 11% | 2% | | | |
| D | 挨拶・礼はできていますか。 | 60% | 34% | 5% | 1% | | | |
| E | 授業は理解できていますか。 | 27% | 56% | 13% | 4% | | | |
| F | 小テストや講習にまじめにとりくんでいますか。 | 41% | 43% | 14% | 2% | | | |
| G | 毎日、家庭学習はできていますか。 | 32% | 40% | 23% | 5% | | | |
| H | 学校で実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは将来を考えるための機会になっていると思いますか。 | 34% | 42% | 17% | 7% | | | |
| I | 大谷の海外研修や留学生との交流により国際理解が深められていると思いますか。 | 32% | 40% | 16% | 12% | | | |
| | | 十分に<br>気をつけている | 気をつけている | あまり<br>気をつけていない | 気をつけていない | SNSを利用していない | | |
| J | 家庭でSNSを利用する時に情報モラルに気をつけていますか。 | 48% | 42% | 4% | 1% | 5% | | |
| | | よく見ている | 見ている | あまり見ていない | 見ていない | | | |
| K | 大谷のホームページを見ていますか。 | 6% | 20% | 36% | 38% | | | |
| | | そう思う | どちらかといえば<br>そう思う | あまり<br>そう思わない | そう思わない | | | |
| L | 大谷の部活動は活発だと思いますか。 | 35% | 44% | 15% | 6% | | | |
| M | 学校行事に積極的に取り組んでいますか。 | 44% | 43% | 9% | 3% | | | |
| N | 家族と話し合う時間が取れていますか。 | 59% | 33% | 6% | 2% | | | |
| O | 大谷の先生はあなたを大切にみてくれていますか。 | 42% | 41% | 12% | 6% | | | |
| P | 現在のクラスに満足していますか。 | 57% | 27% | 10% | 5% | | | |
| | | 学習活動 | 進路指導 | 生活指導 | 学校行事<br>・部活動 | 友人との関係 | 先生との関係 | 環境・雰囲気 |
| Q | 大谷中学校・高等学校に入学して１番満足していることは何ですか。 | 11% | 3% | 2% | 12% | 54% | 4% | 14% |

大谷中学校・高等学校

# ２０２１年度　保護者アンケート

| 質問番号 | 質問内容 | そう思う | どちらかといえばそう思う | あまりそう思わない | そう思わない | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 大谷の教育理念・教育方針について賛同されていますか。 | 62% | 33% | 4% | 1% | |
| B | お嬢様は日常、その場に応じた適切な言葉遣いができていますか。 | 36% | 54% | 8% | 2% | |
| C | お嬢様は日常、時間を守って生活できていますか。 | 39% | 41% | 15% | 5% | |
| D | お嬢様は日常、挨拶ができていますか。 | 53% | 39% | 7% | 2% | |
| E | 大谷では生徒のニーズに対応した教育課程や学習指導がなされていると思われますか。 | 33% | 47% | 15% | 5% | |
| F | 保護者の方に生徒の学習状況・成績等はわかりやすく伝わっていますか。 | 43% | 44% | 10% | 2% | |
| G | お嬢様は家庭学習の習慣が身についていると思われますか。 | 34% | 36% | 23% | 8% | |
| H | 大谷が実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは、お嬢様が自分の将来を考えるための機会になっていると思われますか。 | 24% | 47% | 22% | 7% | |
| I | 大谷の海外研修や留学生との交流により、国際理解が深められていると思われますか。 | 17% | 38% | 28% | 17% | |
| J | お嬢様はSNSやスマートホンの利用について、ご家庭での使用方法などの決まりを守っておられますか。 | 29% | 37% | 20% | 10% | 3%(SNS利用せず) |
| K | 大谷のホームページを見ておられますか。 | 28% | 29% | 29% | 14% | |
| L | 大谷のＰＴＡ活動は活発だと思われますか。 | 8% | 46% | 35% | 10% | |
| M | 保護者あての文書・連絡等は適切であると思われますか。 | 50% | 40% | 7% | 3% | |
| N | ご家庭でお嬢様と話し合う時間が取れておられますか。 | 60% | 34% | 5% | 1% | |
| O | 大谷は生徒の安全面で事故の防止に配慮していると思われますか。 | 46% | 46% | 5% | 3% | |
| P | 大谷では生徒に関するプライバシーが守られていると思われますか。 | 47% | 45% | 5% | 2% | |
| Q | 大谷が保護者の方とお話する機会をもっていると思われますか。 | 31% | 47% | 16% | 6% | |

# 2021年（令和3）年度　教員・生徒・保護者アンケ―ト概要と総括

**【教員による自己評価アンケート】**

**○概要**

教員による学校自己評価のために、別紙○の５０項目について、［１：そう思う・２：どちらかといえばそう思う・３：あまりそう思わない・４：そう思わない］の4段階評価アンケートを行った。アンケートの結果は、各項目について1を４ポイント、2を３ポイント、3を２ポイント、4を０ポイントとして全教員の評価ポイントを集計・平均し、［項目評価ポイント］を算出した。［項目評価ポイント］３.５以上の項目が1項目、２.５以下の項目が8項目であった。また、各項目内で1の比率が４０％以上のものは 3項目、4の比率が１０％以上のものは11項目あった。

**○教員の評価が高い項目**

情操教育に関連する項目

・朝礼、終礼時には瞑目や合掌、讃歌斉唱がきちんと実践できている。

・宗教的行事（はなまつり、報恩講、追弔会、了秀忌、早朝勤行など）が意義あるものとして実施できている。

学習指導に関連する項目

・教科毎に学習指導計画を立て、指導にあたっている。

・日常の教科指導において教員間で個々の生徒に関する情報を交換し、協力して指導にあたっている。

生活指導に関連する項目

・教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員やカウンセラーとも相談することができる。

・いじめ防止のための取組や体制づくりに努力している。

**○教員の評価が低い項目**

学習指導に関する項目

・学習指導計画について、他教科とも情報交換し連携している。

・研修や研究の成果を報告し、校内全体で共有できるよう努めている。

・学校内外の研修に参加し、学習指導の向上に努めている。

・新任教員に授業方法の伝達指導を行うなど、育成に努めている。

・評価のあり方について検討する機会がある。

生活指導に関連する項目

・校則が生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、教職員の間で話し合う機会がある。

・人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合う機会がある。

学校経営に関連する項目

・学校の経営状況について教職員が理解している。

・学園本部と学校との意志疎通が適切になされている。

**〇総括**

令和3年度は2年目となるコロナ禍のなか、教員は対面授業とライブ授業を併用。学級閉鎖も度々あるなかで生徒との関わりを模索しての年度であった。アンケートの結果、建学の精神である宗教的情操教育については高い評価となっている。学習指導において「個々の生徒に関する情報交換」「教科毎の学習計画」は高い評価となっている。「学習指導計画についての他教科との情報交換」・「新任教員の育成」・「評価の在り方の検討」については課題を残している。また、「常に生徒が理解できる授業」については、生徒全員がわかる授業をめざしていかねばならない。生活指導においては「校則が生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて」は「しつけ教育」で定評がある大谷で、個々の生徒に丁寧に指導をしていかねばならない。「経営状況についての理解」については評価は高くなっているが、「学園本部との意思疎通」は引き続いて、評価が低く、教育現場と本部との関係の改善には課題を残した。

# 2021年（令和3）年度　教員・生徒・保護者アンケ―ト概要と総括

**【生徒への学校生活アンケート】**

**○概要**

生徒の学校生活に関するアンケートを実施した。別紙○の１７項目について、［ １ ：そう思う・２ ：どちらかといえばそう思う・３ ：あまりそう思わない・ ４ ：そう思わない ］の4段階評価を行った。全生徒のアンケート結果を集計し、各項目の評価比率を算出した。各項目内で１の比率が４０％以上のものは １０項目、3と４の比率が合計２０％以上のものは５項目あった。

**○生徒の評価が高い項目**

情操教育に関連する項目

・朝礼、終礼にまじめに取り組めている。
・日常生活で時間を守って生活できていますか。
・挨拶、礼はできていますか。

学校生活に関連する項目

・小テストや講習にまじめに取り組んでいますか。
・学校行事に積極的に取り組んでいますか。
・大谷の先生はあなたを大切にみてくれていますか。
・現在のクラスに満足していますか。

家庭生活に関連する項目

・家族と話し合う時間が取れていますか。
・家庭内でＳＮＳを利用する時に情報モラルに気をつけていますか。
・学校生活で１番満足していることは友人との関係

**○生徒の評価が低い項目**

学習活動に関連する項目

・毎日、家庭学習はできていますか。
・学校で実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは将来を考えるための機会になっていると思いますか。

学校生活に関連する項目

・大谷のホームページを見ていますか。

**○総括**

令和3年度コロナ禍のなか、球技大会、体育大会、海外研修、海外修学旅行など大きな行事が中止を余儀なくされた。しかし、生徒アンケートの結果、朝終礼や、挨拶・礼など情操教育については例年同様に高い評価となっている。家庭での話し合う時間も高い評価であった。学校行事や部活動は制限のあるなか精一杯楽しもうという姿勢があった。国際理解についても、海外修学旅行の代わりにオンラインの利用や文通など、可能な手段を利用して交流を図っていた。「小テストや講習にまじめにとりくむ」は高い評価であるが、なお「家庭学習ができていない」では課題を残している。また、昨年度と同様、生徒は「ＳＮＳを利用する時に情報モラルに気をつけている」としているが、保護者アンケ―トでは「ＳＮＳやスマートフォンの利用についての決まりができていない」という回答があり、情報リテラシーの向上に継続して努めなければならない。「大谷の先生はあなたを大切にみてくれていますか」という項目も評価の低い生徒がいることを教師は心にとめ、今後も丁寧に生徒に接していかねばならない。

# 2021年（令和3）年度　教員・生徒・保護者アンケ―ト概要と総括

**【保護者への学校生活アンケート】**

**○概要**

保護者に対して、生徒の学校生活に関するアンケートを実施した。別紙○の１７項目について、［ １：そう思う・２：どちらかといえばそう思う・３：あまりそう思わない・ ４：そう思わない ］の4段階評価を行った。全保護者のアンケート結果を集計し、各項目の評価比率を算出した。各項目内で１の比率が４０％以上のものは７項目、3と４の比率が合計２０％以上のものは９項目あった。

**○保護者の評価が高い項目**

情操教育に関連する項目

・大谷の教育理念・教育方針について賛同されていますか。

・お嬢様は日常、挨拶ができていますか。

学校生活に関連する項目

・大谷は生徒の安全面で事故の防止に配慮していると思われる。

・保護者あての文書・連絡等は適切であると思われますか。

・大谷では生徒に関するプライバシーが守られていると思われますか。

家庭生活に関連する項目

・ご家庭でお嬢様と話し合う時間が取れておられますか。

・保護者あての文書・連絡等は適切であると思われますか。

**○保護者の評価が低い項目**

学習指導に関する項目

・お嬢様は家庭学習の習慣が身についていると思われますか。

・大谷の海外研修や留学生との交流により、国際理解が深められていると思いますか。

家庭生活・ＰＴＡ活動などに関連する項目

・SNSやスマートホンの利用について、ご家庭で使用方法などの決まりを作っておられますか。

・大谷のホームページを見ておられますか。

・PTA活動が活発だと思われる。

**○総括**

保護者の方には、学級閉鎖の対応や感染防止など、ご家庭で多大なご協力をいただいた。コロナ禍で、学校行事・ＰTA活動・海外研修等が制約をうけるなか、本校の教育理念には例年と変わらずご賛同をいただいた。挨拶をはじめとした基本的な生活習慣も身についており、家庭での話し合いもほぼ十分にとれている。しかし、「家庭学習の習慣」については課題を残した。また、「ホームページ」、「ＰTA活動」についても課題があり、一層の改善が必要である。学校は保護者と連携をはかり、生徒たちが心身ともに健全に成長していくよう教育活動を実践していきたい。

2022 年 8 月 19 日

# 令和 3(2021)年度学校関係者学校評価委員会　結果報告

令和 4 年 7 月 1 日に令和 3(2021)年度学校関係者学校評価委員会を 3 年ぶり対面にて実施した。外部委員の方々の学校評価に対するご質問や貴重なご意見をいただいた。以下、課題、対策、質問、意見を報告する。

1.課題　学習指導について

a.中期的目標①「学習習慣の確立と基礎学力の定着」

b.中期的目標②「コースに応じた学力向上の取り組み」

c.生徒アンケートＧ・保護者アンケートＧ「家庭学習の習慣」

対策

a. 令和 3 年度はコロナ禍のなか、学内の ICT 活用が一挙に進み、全学年・全クラスでリモート授業の対応ができた。ICT 活用は教員の授業研鑽と授業力向上に結果的につながり、ひいては生徒の理解を深め、主体的に学ぶ意欲を高めることとなった。

令和 4 年度は高校新課程が実施され、中 1・高 1 は iPad を全員所有する。

b.模試分析会で各学年の学力状況を学習指導委員会・学年会議・教科会議で共通認識、課題を共有していく。コースに応じた学力向上のための具体的な課題をあげ、学年、教科が次回の模試に向けて対策をとっていく。

c. 生徒自らに定期考査・模擬試験での具体的な課題を認識させる。小テストの合格目標、漢検・英検の取得級目標を立てさせる。具体的な課題解決や目標設定は主体的に学習に取り組む姿勢および家庭学習の習慣にもつながっていく。

2.課題　進路指導について

a.中期的目標①「コース制を生かした丁寧な進路指導」

b.中期的目標②「進路指導の取り組み」

対策

a.令和 3 年度はコロナ感染対策のため内外の進路関係の行事もかなり中止となった。令和 4 年度はオープンキャンパスや保育所体験、看護師体験など実施されるので積極的に参加を促す。

令和 5 年度より高 1（6 か年）でＳ医志クラス・Ｓ理系クラス・Ｓ文系クラスを設置する。様々な分野からの講演会などを企画し、中学生・高校生ともに将来の夢や進路を考えさせていく。

b.令和 3 年度の高 3 生は、コロナ禍のため授業のみで学校行事がほぼでき

ない状況であった。制約があるなか、生徒と教員が絆を深め、受験を乗り切っていった。今後も生徒に丁寧に寄り添いながらの進路指導を目指していく。

3.課題　生活指導について

a.中期的目標①　「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」について

b.中期的目標②　防災避難訓練の実施について

対策

a.「自分からあいさつできる」についてはまだまだ課題があるので、今後も継続して取り組んでいく。

b.感染予防のため避難訓練を実施できなかった。年度当初に学年・クラス単位で必ず避難経路の確認行う。

4.課題　海外教育について

a.中期的目標①「国際感覚の育成」について

対策

a.コロナ禍のなか、海外留学中止のため、オンライン海外留学（凛花コース）、ニュージーランド姉妹校と定期的に文通をするなど積極的に国際交流をはかった。令和4年4月からGEZ（グローバルイングリッシュゾーン）を設置。希望者に放課後週2回ネイティブとの英会話レッスンを通じて国際感覚を育成する。

　アートマイル国際協働学習プログラムへの参加を企画し、ＳＤＧｓを学習テーマにしてインドネシアの学生と交流をはかっていく。

5.課題　生徒募集・広報活動について

a 中期的目標②高校入試での募集定員確保

b.生徒アンケートK・保護者アンケートK「ホームページについて」

対策

a.高校入試では定員確保にいたらなかったが、出願数・入学者数は伸びた。3か年生1期生が初めて卒業し、進学実績が良かったので、その結果をもって積極的に広報をしていく。

b.生徒、保護者ともにホームページをあまり見ていない。受験生は見ているが、在校生や保護者も見てみたいと思える内容を工夫していく。

☆評価委員の方々からのご意見

中期的目標 3

生活指導について

・ 駅からの登校の様子を見ていて、しっかり挨拶できている生徒が多いことが大谷の魅力になっている。HP の活用が少ないように思われるので有効に活用してほしい。保護者・生徒の満足度が高い評価を受けていることが良い。教員アンケートにおいては個人での解決は難しい。

・ 生活指導の取り組みは良い。3 ヵ年の進路結果も出ている。3 年間の取り組みが間違っていなかった。少人数クラスも良かった。高校入試で PR してほしい。

中期的目標 1

学習指導について

・ 数学は 1 年早く先取りするだけで良い。小学校の算数が一番大切なところなので、中学校の 3 年間で小学校の負債を埋めてあげることが必要である。

医学部の英語では差がつかない。数学がすべてに関係してくるので、数学を鍛えるべきである。理科・社会は高校からのカリキュラムの工夫で楽しくできる。新成人 80 万人減少、大阪の私立女子校では四天王寺だけ。女子教育はまだまだチャンスがある。是非、頑張ってほしい。

その他意見

・先生方の苦労が実った。一人一人が頑張っている。校則についての連携ができていない。凛花コースは指定校受験だけでなく、女子教育にとっては必要な茶道や華道の経験ができる良いコースである。長女の時は 2 クラスあったが次女の時は 1 クラスで 6 年間クラス替えがなかったのは厳しかった。生徒は成長すると言われたが解決できないこともあった。文系からでも看護系に進めるクラスがあれば良かった。

・大学の友達もできたが、中高の友達は一生の付き合いになる大切な友である。

在学中に絆ができるような取り組み、学校行事は継続させてほしい。

☆各部署から

中期的目標 3

生活指導について

・生活指導部では子供たちが社会に出て困らないようにしつけ教育に注力したい。挨拶や丁寧な言葉遣いを毎日の生活の中で指導していきたい。

中期的目標 2

進路指導について

・新カリキュラムについて現場の状況報告、生徒負担が増えている。ICT 教育など教員も迷いながら勉強している。外部からのご意見はありがたい。

中期的目標 4

海外教育について

・GEZ 開講（10 回）中 1 から高 3 までコースも学年も関係なくネイティブと過ごすことで、つながりができている。希望生徒による国際アート、海外交流をはじめる。SDGs、教育、環境問題についてインドネシアの学生と ZOOM で交流始める。オーストラリアとは文通で交流をしている。海外研修が 3 年間止まっていることは残念である。

その他意見

・コロナ禍で行事がほぼ無く授業だけの日々だったが，その分生徒と先生の絆が深まり共に受験を乗り切った年になった。今年からはオープンキャンパス・保育所体験などいろいろと活動ができるようになった。それぞれの進路実現に向けてサポートしたい。

・ 府立の働き方が、ブラック企業的に報道されていた。小学校も理数、ICT、英語、金融教育、SDGs やることが沢山ある。小学校の算数が大切だと聞いたので頑張っていこうと思う。

・働き方改革については管理職が見極める。子供を愛する気持ちがすべての働き方につながる。先生方が働き甲斐があると感じて、はじめて子供たちに伝わる。

凛花コースは思考力・判断力・表現力をつけると広報してもなかなか理解してもらえないが、2 クラスの募集をめざしたい。